The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	新出土資料関係文献提要（二）
Author(s)	前川, 正名
Citation	中国研究集刊. 2003, 34, p. 87-95
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/60940
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

中国研究集刊　陽号（総34号）平成十五年十二月　八七―九五頁

新出土資料関係文献提要（二）

前川正名

本提要は、『新出土資料と中国思想史』（『中国研究集刊』別冊、二〇〇三年六月）に掲載した「新出土資料関係文献提要（一）」の続編である。前回同様、郭店楚墓竹簡（郭店楚簡）、上海博物館蔵戦国楚竹書（上博楚簡）に関する文献を主対象とした。

『《上海博物館蔵戦国楚竹書（二）》読本』（出土文献訳注研析叢書P016、季旭昇主編、陳美蘭・蘇建洲・陳嘉凌合撰、万巻楼図書股份有限公司、二〇〇三年七月、二四六頁、横組・縦組繁体字）

『上海博物館蔵戦国楚竹書』第二分冊（上海古籍出版社、二〇〇二年）として公開された文献六篇に対する釈文、語釈、注釈を収載した書。全体は大きく二部に分かれる。

前半部は、横組繁体字にて第二分冊所収の全文献、すなわち『民之父母』『子羔』『魯邦大旱』『従政』『昔者君老』『容成氏』について、各々「題解」（該当文献に対する簡易な解説）、「原文」、「語訳」（現代中国語訳）、「注釈」（伝世文献の類似文章との比較、字形の解説、語句の解説等）を付す。後半部は、縦組繁体字にて、各文献の釈定文字を列挙している。横組の前半部に合わせて左綴じ縦書きの装訂（末尾より縦組が始まる両開き装訂ではない）としているため、やや閲覧しづらい。

内容的に注目されるのは、『上海博物館蔵戦国楚竹書』（上海古籍出版社）と異なる釈読を提示している箇所が見られる点である。各文献の解読の際に、有益な参考資

料となることと思われる。

なお、『上海博物館蔵戦国楚竹書』第一分冊に対する万巻楼版の注釈としては、『上博楚簡三篇校読記』がある（「提要（一）」で解説済み）。

『上海博物館蔵戦国楚竹書（一）研究』（黄人二著、高文出版社、二〇〇二年八月、二八三頁、横組繁体字）

上博楚簡に関する釈文・研究を収載した書。『上海博物館蔵戦国楚竹書』第一分冊（上海古籍出版社、二〇〇一年）に収録された『孔子詩論』『緇衣』『性情論』を対象としている。構成は全五章からなり、内訳は、第一章「概論」、第二章「孔子詩論」、第三章「緇衣」、第四章「性情」、第五章「餘論」である。

この内、第二章～第四章では、それぞれの第一節において「本文校読」を掲載する。その方法は、まず、一簡毎に釈定した釈文を示し、次に校読（解釈）を載せ、更に頁下段に注を付載するというものである。また、第三章・第四章については、郭店楚簡あるいは伝世の関係文献とも比較検討がなされており、上海古籍出版社『上海博物館蔵戦国楚竹書』の釈読に比べてかなり詳細な訳注となっている。なお、巻末に「参考文献資料」を附録する。

『郭店竹書別釈』（新出簡帛研究叢書、陳偉著、湖北教育出版社、二〇〇三年一月、二五〇頁、横組簡体字）

郭店楚簡に関する釈文・研究書。郭店楚簡全文献を対象としている。字句の解釈が中心であり、書名の通り、通行の釈文とは異なる竹簡配列や新解釈を提示するところに特色がある。

全体は、本編十六章、附録二本からなり、これに李学勤氏の総序が附されている。本編の内容は次の通り。「《老子》甲組零識」「《大一生水》校釈」「《緇衣》零識」「《魯穆公問子思》零識」「《窮達以時》零識」「《五行》零識」「《唐虞之道》校釈」「《忠信之道》零識」「《大常》、《徳義》、《賞刑》三篇的編連問題」「《大常》校釈」「《徳義》校釈」「《賞刑》校釈」「《性自命出》諸簡編連問題及校釈」「《語叢一》零識」「《語叢三》零識」「《語叢四》校釈」。附録は「附表細目」「作者有関論文目録」である。

『尊徳義』『成之聞之』『六徳』の三文献について、そのまとまりを越えて竹簡の配列を大胆に入れ替え、各々「大常」（ほぼ『六徳』に相当）、「賞刑」（ほぼ『尊徳義』

に相当)、「徳義」(ほぼ『成之聞之』に相当)と、新たに命名しつつ解釈を提示している。原釈文(荊州市博物館編『郭店楚墓竹簡』、文物出版社、一九九八年)とは異なる新見解として注目される。

『楚地出土資料と中国文化』(郭店楚簡研究会、汲古書院、二〇〇二年三月、六〇八頁、横組和文)

主として郭店楚簡に関する論文をまとめた書。十七名(日本人九名、中国人五名、韓国人二名、アメリカ人一名)の研究者による十七本の論文が収録されている。日本における郭店楚簡関係の論文をまとめて収録した書としては初期のものである。

本書の翌年に刊行された『郭店楚簡研究』(池田知久編、汲古書院、二〇〇三年二月、縦組和文)と比較すると、『郭店楚簡研究』が郭店楚簡の儒家系文献に対する論文を収めているのに対し、本書はさらに、『老子』『太一生水』等の道家系文献に関するもの、また、馬王堆漢墓、包山楚簡、尹湾漢墓簡牘等、「楚地」から出土した資料に関する論文をも幅広く収めている。

この内、郭店楚簡に関する専論は八本。また、曹峰氏の「試析上博楚簡《孔子詩論》中関"閑疋"的幾條竹簡」は、日本における上博楚簡に関する論文としてはごく初期のものである。科学研究費による共同成果の総括としては、郭店楚簡に対する研究会の統一的な見解が示されなかったのはやや残念であるが、本書により、国内外における郭店楚簡研究の進展の状況を理解することができる。

『新出楚簡試論』(出土思想文物与文献研究叢書(三)、丁原植主編、廖名春著、台湾古籍出版有限公司、二〇〇一年五月、三七六頁、横組繁体字)

郭店楚簡および上博楚簡に関する論文を収載した書。構成は、第一編「郭店楚簡専論」、第二編「郭店楚簡叢考」、第三編「簡序探原」、第四編「新出簡管窺」の四部からなる。

第一編「郭店楚簡専論」は、郭店楚簡と『詩』『書』『周易』との関係について論じた計四本。第二編「郭店楚簡叢考」は、郭店楚簡『性自命出』『六徳』『成之聞之』『老子』関するもの計四本。第三編「簡序探原」は、郭店楚簡『性自命出』・上博楚簡『性情論』に関する論文二本、

郭店楚簡『六徳』『成之聞之』に関するもの四本の計六本。第四編「新出簡管窺」は、上博楚簡の『武王践祚』関係一本、『孔子閒居』と『緇衣』とについて論じたもの一本、『周易』関係一本、『詩論』関係一本、『帰蔵』関係一本、計五本。本書全体では十七本の論文を収めている。論文の傾向ごとに四篇に分けているものの、それぞれの論文はあくまで独立した個別の論文である。なお、巻末に「郭店楚墓竹簡論著目録」を附録する。

『出土古代天文学文献研究』（出土思想文物与文献研究叢書（二）、丁原植主編、馮時著、台湾古籍出版有限公司、二〇〇一年五月、三八五頁、横組繁体字）

古代中国における天文学の歴史について論じた書。郭店楚簡だけでなく、甲骨文、金文、長沙楚帛書、曾侯乙墓戦国漆箱等、各種出土文物を用いて論じている。

本書は全七章（弁言と図版を除く）からなり、この内、楚簡に関係する部分は第二章「郭店楚簡《太一生水》研究」（七七頁から九二頁）で、使用している楚簡関係の文献は、主として郭店楚簡の『老子』と『太一生水』である。

『老子』には、周知の通り「道」を根源とする宇宙生成論が述べられており、また、『太一生水』にも、「太一」を根源とする宇宙生成論が説かれている。こうした観点から、両書を「天文学」の枠組みで捉えようとするのである。郭店楚簡自体を対象とする研究書ではないが、出土文物を総合的に検討して古代天文学を再検討しようとした新しい研究成果である。

『新出楚簡与儒家思想論文集』（陳福濱主編、輔仁大学文学院、二〇〇二年七月、三二八頁、横組繁体字）

郭店楚簡および上博楚簡に関する論文を収載した書。十一名の研究者による十一本の論文が収録されている。

『礼記』緇衣篇と楚簡『緇衣』との関係を述べた論考が二本、『孔子詩論』に関するものが三本、『性情論』に関するものが四本、その他が二本である。緩やかながらテーマを絞って編集しているが、論文の掲載順序はテーマ毎にまとめられてはおらず、また、郭店楚簡よりも上博楚簡の方に重点が置かれた編集となっている。

個々の論文について言えば、王金凌氏の「《礼記・緇衣》

今本与郭店、上博楚簡比論」、趙中偉氏の「性自命出，命自天降—上海戦国竹簡〈性情論〉与郭店竹簡〈性自命出〉之人性論剖析」など、現行本や郭店楚簡の研究を踏まえた上で、上博楚簡に論及しているものが多く、現行本と新出資料との関係を考える際の参考になると思われる。

『簡帛思想文献研究』（出土思想文物与文献研究叢書（五）、丁原植主編、王博著、台湾古籍出版有限公司、二〇〇一年五月、三三七頁、横組繁体字）

主として郭店楚簡に関する論文を収載した書。王博氏による十八本の論文が収録されている。書名は「簡帛」となっているものの、郭店楚簡に関する論文がほとんどであり、また、上博楚簡に関する論文は収録されていない。

郭店楚簡に関しては、『緇衣』『唐虞之道』『成之聞之』等の儒家系文献から、『老子』『太一生水』の道家系文献まで幅広く対象としている。

『五行』に関しては、「三、五行与四行」「四、子思五行説与伝統五行説的関係」「八、孟子与《五行》」「十一、郭店竹簡所見儒道関係」などにおいて、儒家思想と「五行」との関わりを論じている。郭店楚簡の儒家系文献と道家系文献の両者を取り上げた研究となっているところに本書の特徴がある。

『古墓新知』（出土思想文物与文献研究叢書（十）、龐樸等著、台湾古籍出版有限公司、二〇〇二年五月、二九二頁、横組繁体字）

郭店楚簡に関する論文を収載した書。十六名の研究者による二十二本の論文が収録されている。

構成は、『太一生水』関係五本、『性自命出』関係四本、『五行』関係五本、『六徳』関係四本と、同一文献に対する論文をまとめて編集している。その他、『成之聞之』『窮達以時』の専論が各一本、総記・雑記が二本である。収録論文数の比率の上で、やや道家系が中心との印象を受けるものの、儒家系、道家系に関わらず「君子慎独」「為父絶君」「大徳者受命」等のテーマや、宇宙論、心性論等に関する論考を収めている。ただし、上博楚簡に関する言及はなされていない。

なお、本書には陳偉氏の「関於郭店楚簡《六徳》諸篇編連的調整」が収載されており、『成之聞之』『尊徳義』

『性自命出』『六徳』の四篇について、竹簡配列についての新見解が提示されている。

『楚地出土簡帛文献思想研究（一）』（丁四新主編、湖北教育出版社、二〇〇二年一二月、四〇三頁、横組簡体字）

主として郭店楚簡に関する論文を収録した書。構成は、「郭店楚簡」「上博楚簡」「楚系《日書》与秦漢簡牘」「馬王堆帛書」の四部からなる。

ただし、分量的には郭店楚簡に関するものがほとんどである。「郭店楚簡」の部は七名の研究者による十三本の論文、「上博楚簡」の部は三名の研究者による三本の論文、「楚系《日書》与秦漢簡牘」の部は三名の研究者による三本の論文、「馬王堆帛書」の部は二名の研究者による二本の論文が収録されている。

郭店楚簡の研究書としては、やや後出ではあるが、先行する諸研究を踏まえて検討を加えている。また、陳偉氏の論文三篇は、『尊徳義』『成之聞之』『六徳』の三文献について、そのまとまりを越えて竹簡の配列を大胆に入れ替えた新解釈を提示するものであり、注目される。

なお、郭店楚簡全文献に対する陳偉氏の釈文・解釈は、『郭店竹書別釈』（湖北教育出版社、二〇〇三年）（本提要で先述）として刊行されている。

『郭店儒簡論略』（出土思想文物与文献研究叢書（十三）、欧陽禎人著、台湾古籍出版有限公司、二〇〇三年四月、二二四頁、横組繁体字）

郭店楚簡の研究書。書名の示す通り儒家系資料を中心としているが、道家系文献とされている『太一生水』も一部取り上げている（第壹章、第二節「《太一生水》与先秦儒家性情論」）。

全体は六章からなり、配列は単なる文献別ではなく、テーマ別に再編されている。「壹、天人之際」では、主として『太一生水』『窮達以時』『魯穆公問子思』等について論ずる。また「貳、人学思想」では『性自命出』『魯穆公問子思』『孟子』、「参、美芸境界」では『性自命出』、「肆、倫常祀天」では『緇衣』『六徳』、「伍、残簡拾穂」では『語叢』など、「陸、源遠流長」では『尚書』および睡虎地秦墓竹簡「為吏之道」などを用いて論じている。

郭店楚簡に加えて、伝世の文献、睡虎地秦墓竹簡など

をも活用した視野の広い研究となっている。

『《周易》経伝梳理与郭店楚簡思想新釈』（出土思想文物与文献研究叢書（十四）、金春峰著、台湾古籍出版有限公司、二〇〇三年四月、一九七頁、横組繁体字）

『周易』経伝の成書年代と思想的特色について論じた研究書。郭店楚簡の思想解釈を中心とした各種出土資料との関係を軸に論じている。「梳理」とは、櫛などで髪の毛をすくように整えるの意。

全体は以下の全十三章からなる。「壹、《周易》之編纂成書及其思想哲学意義」「貳、恐懼修省与観象進徳」「参、《象伝》与《小象》的思想特点及成書之時代」「肆、帛書《繫辞》反映的時代与文化」「伍、通行本《繫辞》之成書」「陸、《繫辞》的哲学思想」「柒、《繫辞》的倫理道徳思想」「捌、《周易》卦序和《序卦》的成書時代与思想特色」「玖、帛書《二三子問》《要》与孔子」「拾、帛書《穆和》・《昭力》反映的思想与時代」「拾壹、郭店楚簡《六徳》・《忠信之道》・《成之聞之》之思想特徴与成書時代」「拾貳、郭店楚簡《老子》的文史哲意義」「拾参、読郭店楚簡《性自命出》札記 ―従喪礼「踊」看時代」。

『周易』経伝の成書時代、及び思想的特色については諸説が並立している。本書は郭店楚簡の発見を受けて、丹念な整理と厳密な分析を加え、新見解を提示している。但し、上博楚簡『周易』（現時点で未公開）については、言及がなされていない。

『上海博物館蔵戦国楚簡孔子詩論述学』（劉信芳著、安徽大学出版社、二〇〇三年一月、三二四頁、横組繁体字）

上博楚簡『孔子詩論』に関する研究書。『孔子詩論』の釈読、および伝世文献との関係について論じている。

全体は、上編と下編とからなる。上篇は、「楚簡《詩論》所評風、雅、頌研究」「《詩論》所評"童而偕"之詩研究」「《詩論》所評詩歌表現手法研究」「以楚簡解《詩論》」「《詩論》考釈的意見分岐以及相関問題」「孔子《詩論》与新世紀的学術走向―《詩論》研究述評」の六編の論文を収める。

下編は、「詩論集解」「楚簡《詩論》釈文校補」「楚簡《詩論》苑丘考」の三篇の論文、および「竹簡尺寸、契口位置登記表」「李学勤：《詩論》分章釈文」「各家分章簡序一覧表」「"孔子"合文」「《詩論》作者」「《詩論》与

《詩序》」「《詩論》与四家《詩》」「資料輯録」の八つの付録を収める。

『孔子詩論』の専著としては、最初のものであると思われる。既発表の多くの先行研究を踏まえて発表された労作であり、例えば、問題となる字句については、諸説をまとめて列記するなど、表記上の工夫も見られる。

『郭店竹簡《性自命出》研究』（新出簡帛研究叢書、李天虹著、湖北教育出版社、二〇〇三年一月、二六五頁、横組簡体字）

郭店楚簡『性自命出』に関する研究書。字句の解釈と思想的特質、および上博楚簡『性情論』との関係について述べている。

本書の構成は、本編全九章と「主要参考文献」および附録四本からなる。章題は以下の通りである。本編は、「《性自命出》的編連与分篇」「文字考釈二篇」「《性自命出》与伝世先秦文献"情"字解詁」「《性自命出》中的心性論」「《性自命出》中的楽論」「《性自命出》作者考辨」「従《性自命出》談孔子与詩、書、礼、楽」「《性自命出》集釈」「《性自命出》与上海簡書《性情論》校読」。附録は、「郭店竹簡文字雑釈」「釈郭店竹簡《成之聞之》篇中的"肘"」「郭店竹簡与伝世文献互征八則」「《性情論》文字雑考」。

郭店楚簡『性自命出』については、竹簡の配列や字句の確定について多くの疑問が残されているが、ほぼ同内容の上博楚簡『性情論』との比較検討により、研究の展望が開けることとなった。本書は、そうした考察をいち早くまとめたものである。

『文字の発見が歴史をゆるがす　２０世紀中国出土文字資料の証言』（福田哲之著、二玄社、二〇〇三年三月、二五四頁、縦組和文）

主に二十世紀に発見された出土文字資料について解説した書。甲骨文に始まり、西周金文、侯馬盟書、郭店楚簡、上海博物館蔵戦国楚竹書、睡虎地秦墓竹簡、馬王堆漢墓帛書、銀雀山漢墓竹簡、走馬楼三国呉簡、楼蘭出土文書、吐魯番出土文書まで、それぞれに豊富な図版を使いながら解説を加えている。戦国楚簡については、「修正を迫られる儒教史の通説　郭店楚簡・上海博物館蔵戦国楚竹書」（七四～九九頁）の章で専論される。

出土文字資料全般を視野に収めた初の和書であり、各資料の概要や文字学上・思想史研究上の意義を一般読者にも理解しうるよう平易に説いている。また、章ごとに設けられたコラム欄では、「上海博物館蔵戦国楚竹書の信憑性」「走馬楼三国呉簡はなぜ井戸に埋蔵されたのか」などとして、出土資料発見の裏話が紹介されるなど、構成にも工夫が見られる。